

損益計算書の構造

損益計算書は、売上高を一番上にして、売上原価を引いて売上総利益を計算し、販売費・一般管理費を引き営業利益を計算する・・・という構造になっています。

売上高	4500万円	
売上原価	△ 3150万円	商品原価
<hr/>		
売上総利益	1350万円	商品が稼いだ利益
販売費・一般管理費	△ 1053万円	
<hr/>		
営業利益	297万円	本業で稼いだ利益
受取利息	+ 3万円	
支払利息	△ 15万円	
<hr/>		
経常利益	285万円	資金調達の損益も含めた利益
特別利益	+ 15万円	
特別損失	△ 30万円	
<hr/>		
税引前当期利益	270万円	突発的な利益やコストも加味した利益
法人税等	△ 120万円	
<hr/>		
当期利益	150万円	税金を差し引いた利益

売上高総利益率と売上高営業利益率 取り持つのは販管比率

$$\begin{array}{r}
 \text{売上高} \\
 - \text{売上原価} \\
 \hline
 \text{売上総利益} \\
 - \text{販売費及び一般管理費} \\
 \hline
 \text{営業利益} \\
 + \text{受取利息} \\
 - \text{支払利息} \\
 \hline
 \text{経常利益} \\
 + \text{特別利益} \\
 - \text{特別損失} \\
 \hline
 \text{税引前当期利益} \\
 - \text{法人税等} \\
 \hline
 \text{当期利益}
 \end{array}$$

$$\text{売上高営業利益率} = \frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$$

売上金額を一定とした場合、
売上高営業利益率を良くするには、
売上原価か、販売費及び一般管理費(販管費)のいずれかの金額を小さくすれば、
売上高営業利益率は改善します。

コラムの売上高関連のデータ表の
15~16増分の売上高総利益率に0.31%とあるのは
売上高総利益率が改善したという意味です。
販管比率1.42%とあるのは、販売費・一般管理費が改善したということです。

売上高営業利益率に1.73%とあるのは、上記売上高総利益率の0.31%と販管費の1.42%の改善があったためです。両者を合計すると一致します。

損益計算書の構造上、売上から加減しながら利益率を計算するので、直上の利益率の影響を排除する為に純粋増分を計算するのです。

このコラムでは純粋増分が一番大きいのは売上高営業利益率で、この改善が営業効率の改善をけん引したという結論になりました。